

教育・研究などへの取組状況

総合工学システム学科 都市環境コース 准教授 大谷 壮介

項目	取組状況
教育	<p>◆ 平成 29 年度担当科目 水循環工学Ⅰ(3C)、水循環工学Ⅱ(4C)、水・土質環境実験(4C)、環境衛生工学(5C)、水環境工学(専攻科 2 年)、基礎研究(4C)、卒業研究(5C)</p> <p>◆ 担当科目の取組状況(工夫・改善した点) 学生が問題に取り組む時間を確保した。また、授業中に学生を指名していき、緊張感を持って発表するように促した。水環境工学(専攻科 2 年)では、最新の水環境の技術を紹介しつつ、授業の中で水環境と防災についてディスカッションをおこなった。</p>
研究	<p>◆ 平成 27～29 年度における研究業績</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学術論文執筆 大谷壮介, 鞠川純平(2017): 河口湿地帯の二酸化炭素フラックスの動態解明, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol. 73, No. 2, pp.L1303-L1308. 他 10 件 ■ 国際会議での発表 Sosuke Otani, Akira Umehara, Haruka Miyagawa, Satoshi Asaoka, Naoki Fujii, Tetsuji Okuda, Satoshi Nakai, Wataru Nishijima(2016): Transfer efficiency from primary producers to Ruditapes philippinarum on an intertidal flat in Hiroshima Bay, Japan, EMECS11 - Sea Coasts XXVI Joint Conference, P62, Saint Petersburg, Russian 他 5 件 ■ 学術講演会での発表 大谷壮介, 井元大樹, 鴨狩諒, 上月康則(2017): 大阪湾湾奥の過栄養域の二酸化炭素フラックスと水質の関係, 応用生態工学会第 21 回大会, G-91. 他 25 件 <p>◆ 平成 27～29 年度における外部資金獲得状況 物質循環を駆動する河口干潟の炭素固定機能の動態解明, 科学研究費補助金若手 B, 研究代表者, 平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月 大阪湾湾奥の河口域におけるウミニナの復活とその要因解明, 平成 28 年度大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成, 研究代表者, 平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月 他 3 件</p> <p>◆ 学会などでの受賞 平成 28 年 8 月, EMECS11 - Sea Coasts XXVI Joint Conference Best Poster Award</p>
社会貢献	<p>◆ 平成 27～29 年度における公開講座・出前授業の取組状況 寝屋川再生ワークショップ水辺の市民活動, H27-29</p>